



上奏案

神戸市、安寧秩序ヲ維持スル為兵隊縣  
 知事ノ請求ニ依リ市十師團長ニ二月  
 十四日姫路屯屯ノ部隊ヲ大隊長ノ指  
 揮スル歩兵三百名ヲ同市ニ派遣セリ  
 右邊ヲ上奏ス

二月十五日

暴動ニ関スル書類

二月十日

二月十一日

軍部第一六八號

陸軍部三九

二月十日

加

二月十日 今十一日ニ於ケル出兵總負調(二月十一日) 東京府兵總督部

二月十日夜 將校二四 下士以下 五〇四

右ノ外將校一、下士以下約二〇ヨリ成ル巡察ヲ宮城

青山離宮及神田方面ニ屢々派遣セリ

二月十一日晝 將校二三 下士以下 二三〇

同日夜 將校二九 下士以下 三〇〇

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

2034

陸軍

2035

陸軍省

陸軍省

次官

大正

近衛師團參謀長 七六 號

二月十日

二月十日

潤味印行

守衛隊人員並ニ配置変更ノ件報告

大正二年二月十日 近衛師團參謀長 内野辰次郎

陸軍省副官 奈良武次殿

二月十一日近謀第七五號ヲ以テ報告致置シ守衛

隊人員並ニ配置変更ノ件右ハ二月十二日午前六時

ヨリ平常ノ通りノ編成ニ復シ舊シ特ニ増加セル敬言戒

配置モ撤去相成候條及報告候也

陸軍

去日午前二時十分

漢書卷之九

目下要務は、精進方面に在り、鎮靜一と云ふは、  
新編清史及下世精進方面に、若し、神意に  
違ふ鎮靜之を

市便少石川合の鎮靜

漢書卷之九、精進、千五町方面、文書  
或強と云ふ、燒カニ又ハ毀サレタリ此方面  
若干不穩ナリ也、是早大しむコト也

コレニテ若シラク体トマス、但シ、警戒の注意

2012

2012

5

谷村少佐電話報告 (三月十日東京時)

報告

一、兵隊ノ處者方面共異状ナシ

二、國民新聞社より内報ニ日本新聞社員

約四十名尾張川松本構ニ於テ重要者ヲ出候

シ居リ其目的ハ不明ナルニ注シテ請フトテ

同方面ノ軍隊并警ニ案件ニ於テハ何等異状

ヲ認セズ

三、警備兵内報ニ昨夜ノ犯罪者約二百名東京地

方裁判所ニ在ルモノヲ救ヒ出サントスル意ヲアリト

ノトナルニ警備兵側等ニ於テ何等形跡ヲ認メズ

三三



衛氏能督部

十石午能方寸二分

其後乃方而考異案也

琴記之臨上悅城、始自宋午能也

在、各所了、兵引、上、午、能

中、所、深、川、水、川、雜、店、田、六、小

各、路、通、家、人

言、且、了、了、日、可

考、方、而、異、考、也、了、了

東、7、10、1

付

二六

簿

市内騷擾、付軍隊差遣、件報告

大正二年二月十一日 東京衛戍總督子爵川村景明

陸軍大臣男爵木越安綱

昨夜來市内騷擾、付本朝將校、指

揮、以下士以下拾名、記、箇所、差

遣致候向及報告候也

左記

小石川、本郷、下谷、浅草、本所、深川

日本橋、京橋、芝、麻布、赤坂、四谷

麹町、牛込、神田、新宿、品川、豊





察署

山縣公爵邸

桂公爵邸

總理大臣官舎

内務大臣官舎

外務大臣官舎

内務省

近謀 第七五 號

守衛隊人員並配置変更ノ件報告

大正二年二月十日

近衛師團參謀長 内野辰次郎

陸軍省副官奈良武次殿

本二月十日午後八時ヨリ正門賢所及青山離宮守衛隊ノ編成ヲ禁闕守衛勤務令臨時細則附表甲第廿改メ且青山離宮ノ警警戒配置ハ概テ非常配置ニ準シ宮城ニアリテハ通用門坂下門及半藏門ニ複哨ヲ増加配置相成候條依命及報告候也

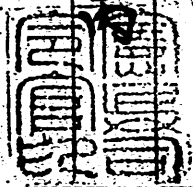


福島印行

憲兵第一二番第一

憲兵配置ノ件報告

大正二年二月十日 憲兵司令官南 部 辰 雨  
 陸軍大臣 芳 澤 木 越 安 綱 殿  
 本日午後別表ノ通摺要ノ箇所ニ憲兵配置美  
 條及報告美也



陸 軍

二月十日於午後憲兵配備表

配備箇所	將校(准士官)	下士以下	人員	計	備考
山縣公爵邸		五	五	五	午後増加員到着時刻其他 公邸附設京二付、田原ヨリ引續キ 警備者及新橋ヨリ屋リ警備者ニ 名ヲ増ス
總理大臣官邸		四	四	四	
桂公伯爵邸		三	三	三	昨日ト増減ナシ 四名減(従来配備員)
内務大臣官邸		二	二	二	午後二時十分到着
都新聞社		一	一	一	増加員午後一時十分到着
報知新聞社		一	一	一	増加員午後一時十分到着
国民新聞社		一	一	一	増加員午後一時五分到着
也来と新設社		九	一	一	増加員午後一時五分到着
讀賣新聞社		一	一	一	増加員午後一時四分到着

<p>ニ六新聞社 毎夕新聞社</p>	<p>一</p>	<p>九</p>	<p>一〇</p>	<p>増加員午後時四分到着</p>
<p>計</p>	<p>三</p>	<p>八二</p>	<p>八五</p>	<p>増加員午後三時五分到着</p>
<p>備考</p>				
<p>一、本表ノ外策馬班將校一、下士以下千八名ヲ以テ四何ヲ編成シテ不時ニ備ヘ平常ハ市内ノ巡察ニ充ツ</p>				
<p>一、本表ノ外特務班一何(准士役一、下士以下七名)ヲ編成シ所要ノ内偵査察ニ仕セシム</p>				

午春の巳時 妻前も傳了

只今冬方而鏡新

全ノ静福九位等ハ兵ケ引上リ

警記底ト文法ハ陸軍部ハ古者有リ

内務ノ官部等ハ陸軍内、外ノ

警事ニ打合ラシメ外務省名川ニ出ル

コトニモ

山形駐西公使部ハ依凡テ成ル

大山公ニ今有リ山形等ニモ

山形 7月

二月十二日午後四時

御賞臨督部

昨更書紙ナレ午後十時四十分合部一筆向多梅匠  
乃ハキ命令多出也一依テ目下一兵至所也

二月十二日午刻四時

憲兵司令部

昨夜暴風甚し各處危険○新聞誌ニ名ツレ  
杜、山路閉テ除ク外今朝ハ時憲兵多ク到ル

瑞理官印

昨夜方限ノ暴風、午後三時ニ始メ、七時中絶ス



十一日午後七時二十分

言及り

一、屋敷町松平康三、今十五名位上、  
海防四十名、  
記者等も弟にやうせんか、  
側近は、

二、七まると、  
幕部了、  
折知、  
毛龍、

海防

2049

720

警衛隊服務表

第一師團

摘要

差出場所	兵	力	差出部隊
三田桂郎	中尉 下士以下	二〇	
永田所官邸	令	右	
議事堂	大尉一 中尉一 下士以下	三〇	步一
報知新聞社	中尉	一〇	
國民	下士以下	二〇	
大和	大尉一 中尉一	二〇	步三
読賣	下士以下	六〇	

備考

一各警衛隊三時間交代其服務間





2051

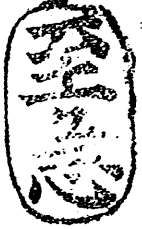
閣



次官



大正



憲警乙第一一九號第一

大阪市騷擾ノ件報告

大正二年二月十二日憲兵司令官南部辰

陸軍大臣男爵木越安綱殿

別紙之通大阪憲兵隊長ヨリ報告有之候ニ付  
及報告候也

但昨夜未ノ電報ハ告ヲ綜合シタルニ過キ大

陸軍部 第四二號

報二九



17

陸軍

三月十日

大阪市騒擾ノ件

三月十一日午後五時大阪市西區青年會館ニ於テ青年俱樂部  
 部發會式ヲ舉ケ日野國明ノ演説中中止ヲ命ゼシ  
 解散シタルニ聽衆約二百ハ午後六時東區國民新聞社  
 支局、報知新聞支局ヲ破壞シ夫レヨリ西區大阪朝報  
 社ノ窓硝子ヲ破壞シ又國民堂代議士武内作夫衛宅  
 ノ校石ニ午後九時半頃ニハ其教約ニ午ニ達シ容易ニ  
 解散セズ遂ニ警察官ニテ制止シタルニ午後十一時半頃  
 ヨリ漸次四方ニ散シ其途次南區四橋、新幸橋、日本  
 橋、大黒橋、灘波新地、五番丁、塩町、堀  
 江通ニ丁目及かつき橋等ノ各處査放所ニ校石シ窓硝子

ツ破壊シテ、校石者ハ丁稚、仲仕、職工ノ類多ク、出立  
 ノ不在ヲ窺ヒ混雜ニ集リ、校石スルモノナリ、群集ノ一部ハ  
 西區、松島遊廓ノ方面ニ向ヒタルモ、其他ハ死傷ナク、一  
 液鎮靜ニ故ナリ

檢査ハ、報知新聞支局着板一、憲報子二十九、國民  
 新聞支局着板一、憲報子五千、大阪朝報社憲報子  
 四、ゆまゝ新聞支局着板一、憲報子十六、武内代  
 議士宅憲報子五千、柵垣三同、日報知新聞支局  
 ニレテ、現在築屋高橋、遠天堂、憲報子二千。

2054

卷

軍

開

本

衛務第

二八

號

陸軍省報第 四四二號

後二九

市内騷擾、付差遣軍隊撤去、件報

大正二年二月十二日 東京衛戍總督子爵川村景明

陸軍大臣男爵木越安綱殿

市内騷擾、為東京府知事、請求、依、

差遣之軍隊、昨十一日午後九時以來、

逐次警戒、撤、本十二日午前二時迄、

各屯警、復歸致候、付及報告候也、

陸軍



心

電報譯 二月十四日午後十時五分發

第二五號



大臣

至急 長

發信者第十師團長

神戸市に於ける紛擾劇烈トナリ知事

ヨリ兵力ノ差遣ヲ要求シ来レリ依テ

行軍ノ名義ニテ歩三九ヨリ大隊長ノ指

揮スル三〇〇名ヲ派遣シ參謀長ヲ情

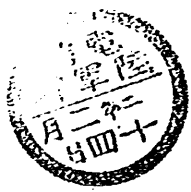
況視察ノ夕ノ差遣セリ不取敢報告

ス



2056

陸軍電信用紙

局	著	局	發	所名人信受
印 附 日	技 手	付 受 午 前 後	第 號	
		十時十分	第十號	
		分	日	
指 定 事 記 ニ オ タ = コ キ リ ト ニ カ ボ オ イ テ ウ ヲ ヨ ナ シ ヲ ノ テ ホ ダ シ ク リ ベ ウ イ ウ ミ キ 4 ヲ テ ヲ 九 ニ タ サ ダ ウ シ ウ ハ シ ヲ ル 4 ゲ = ヲ ケ キ リ ノ リ ニ ヲ タ シ ン ス ダ イ ヲ ヲ リ キ ケ シ ル キ ヲ ヲ ヘ ル ヲ サ ミ イ テ ヲ イ ヲ				至急親展 所名人信發 番 著 號 信 第 一 〇 二 〇 五

陸軍電信局  
 第二十四号  
 二月十四日  
 至急親展  
 第一〇二〇五  
 21

陸軍電信用紙 2057

局 著		局 發		所名人信受	
印 附 日	技手	受 前	受 午	第	報 局
		後	午		
		時	時	月	
		分	分	日	號
指 定 サウ ホケキ ウンヨ コセウ リ ストサ リク ア エ ス ス					著 信
					番 號
事 記					第
					號

二

22 號

0  
2

大正  
陸軍

師團  
報第二一號

軍隊派遣關係詳報

松二九

大正五年二月十五日

第十師團長

松川敏

陸軍大臣男爵木越安綱殿

昨十四日以後電報ヲ以テ軍隊ヲ神戸市ニ派遣件  
及報告候處左記ノ通不取敢及報告候也

左記

兵庫縣知事ヨリ電話ヲ

夜來不穩ノ形勢ニ在

底警察察力ヲ以テハ鎮

ル達ヲ要求ス來レリ

陸

軍



第十師團 第二一號

軍隊派遣ニ關スル件詳報

大正三年二月十五日

第十師團長

松川敏胤

陸軍大臣男爵木越安綱殿

昨十四日以後電報ヲ以テ軍隊ヲ神戸市ニ派遣シ  
及報告候處左記ノ通不取敢及報告候也

左記

二月十四日午後八時十分頃兵庫縣知事ヨリ電話ヲ  
以テ神戸市ニ於ケル紛擾ハ昨夜來不穩ノ形勢ニ在  
リシカ本日の情況益々非ニテ到底警察力ヲ以テハ鎮  
壓スルト困難ナルヲ以テ兵力ノ派遣ヲ要求シ來レリ

四〇三

松二九

二於茲步兵第三十九聯隊長大隊長(步兵佐生島駿)

ノ指揮充約三百名一隊ヲ即時汽車ニテ差遣スルヤ

コトヲ命セリ同時參謀長ヲ狀況視察ノ為兵庫縣

廳ニ急派セリ

三步兵第三十九聯隊ニテハ即時派遣隊ヲ編成シ午後

九時三十分及同九時半分姫路驛發列車ニテ出

發セリ

四軍隊ハ神戸驛ニ到着後暫ク狀況ヲ傍觀セルモ不穩

ノ狀況甚シク無慮數千暴徒ハ同市選出小寺代議士

ノ邸ヲ包圍シ到底鎮撫スルヲ能ハサルヲ以テ知事ノ請

求ニ依リ茲一小部隊ヲ同代議士宅附近ニ派遣シ

警戒巡察等ヲナサレタルニ群衆ハ軍隊ノ來着ヲ見  
 ルト共ニ逐次解散ヲ始シ午前二時頃ニ一時殆ト靜穩  
 ニ歸シタルヲ以テ警戒ヲ撤シ軍隊ハ大部ハ神戶停車場  
 場附近ニ一部ハ兵庫縣警察本部巡查教習所ニ  
 集結シ時々巡察ヲ派遣セリ

五十五日夜再ニ紛擾シ來ニ直愛アトモ目下略靜肅ニ取  
 セレテ以テ救遣隊ハ大隊長以下三千四百名ヲ殘置シ地

ハ十五日午後三時頃歸隊セシメ殘置部隊ハ本夜  
 ノ狀況ニ依リ明日十六日歸隊セシムル旨ナリ

六軍隊ニ殊ニ人民トノ衝突ヲ避ケ且ツ絶對ニ兵器  
 ノ使用ヲ禁ヤリ而シテ此間處ニ此等ノ事實ナシ

全

軍

正



第九號

電報譯 二月十五日 午前午後二時五十分發

大 臣 宛 發信者 十師名長

姫八歩三十九ノ一大隊ハ昨夜神戸到着後  
暫ク狀況ヲ傍觀セシテ不穩ノ狀況甚々  
シキヲ以テ對事ノ請示ニヨリ一小部隊ヲ  
小寺代藏士宅附近ニ派遣シ警戒巡察等  
ヲ為サシメタルニ群集ハ逐時解散シ前二時頃  
ニハ一時全ク靜穩ニ歸シタルヲ以テ警戒戒ヲ  
撤セリ狀況ニヨリ亦帰途ニ就カシタル吾人氏

2062



25

ト  
兵士ノ  
漸  
突  
景  
少  
シ  
モ  
ナ  
シ



2064

# 陸軍電信用紙

局 著		局 發		受 信 人 名 所	
印 附 日	技 手	付 受 午 後	付 受 午 前	第	報 局
		時 分	時 分	月 日	報 局
		時 分	時 分	月 日	報 局
<p>テ 9 4 + オ フ ハ マ ヒ</p> <p>一 4 ハ ニ キ イ タ</p> <p>ラ セ フ ノ ラ エ タ ハ</p> <p>タ ウ ノ シ ヲ ク キ イ</p> <p>フ セ シ カ ジ ヲ ハ キ</p> <p>イ イ キ ヲ ム ヤ サ ミ</p> <p>キ タ キ 9 ヲ セ ヲ ク ノ 九</p> <p>イ ウ モ ケ ル ヲ コ 中 ノ</p> <p>シ エ ヲ ク モ ケ コ ー</p> <p>タ コ ヲ チ ハ フ ウ シ ヲ タ</p>					定 指
<p>事 記</p>					<p>受 信 人 名 所</p> <p>番 號</p> <p>第</p> <p>〇 〇 〇 〇</p> <p>九</p> <p>號 26</p>



9902

# 陸軍電信用紙

局		著		局		發		所名人信受	
印	附	日	技手	受	付	第	月	報	局
				前	午				
				時	時				
				分	字	分	日		
定指								所名人信發	
ハヘルキ スイハ コングヒ シノキ モセシト ナクニ シト ヲカ ト ナム									
								第	
事記								28	

大正

大

電報譯  
臣宛

發信者

十師總長

電報譯

二月十五日

午前午後

時時  
五分分  
着發

三月十七日

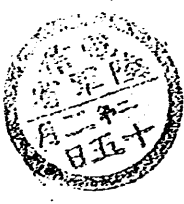
第一二號

姫九、歩三十九、旅長隊、大隊長以下  
三十名ヲ殊置シ他、本日午後三時  
吹歸隊セシメ殊置セシ部隊ハ明十  
六日歸隊セシケル隊セシナリ



8902

# 陸軍電信用紙

局		著		局		發		所名人信受	
印	附	日	技	付	受	第	ヒ	リ ツ イ ク	
			手	午	午	四	メ		
			後	前	時	三	ビ		
			二	七	十	日	局	報	
			時	分	分	號			
							定指		
セ イ ノ ミ ヌ ヲ ヲ ヒ レ ハ ナ ヲ ヲ イ タ ヲ ム ノ ヲ ヲ カ ア 九 ル ヲ ヲ ヲ ミ ハ ミ 一 四 四 四 六 六 テ 女 セ キ 六 ノ ミ イ ヒ ル ヲ ヲ ア ア 九 ナ キ 下 イ ヒ ヲ ノ ハ リ タ ア セ ヲ ア ハ ア ア ヲ ヲ テ							事記		
							所名人信發		番著
							一		信
							〇		第
							二		號
							= 〇		號
							70		號

本

神戸市騒擾事件ニ関スル電話報告 二月十六日午三時  
憲兵司令部発

今夜(十五日夜)小寺代議士邸其他市街ヲ徘徊セシ群衆ハ約二千。昨夜ニ比シ平穩ナリ。警戒不ニ引致セシ者約五十名、軍隊ハ出勤セズ

右及報告ヲ

二月十六日朝

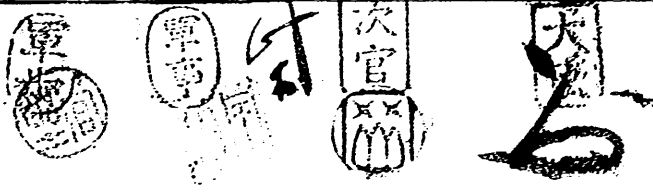
高級副官 取

宿直 取



在 閣

2070



第 號

電報譯

二月十七日

午前午後

四時

三分

八分

發着

次官宛 發信者有田廣島衛隊員

昨夜当地中國新聞社並同社社長宛  
百數十名ノ者推シヨセ果行リ念チシ元  
軍兵巡查ノ盡力ニ依リ同モ無リ鎮靜  
ヲ軍人ニハ全ク關係ナシ安神アリタシ  
尚ホ  
注シテ  
怒ラ戒ヲ下ス  
森綱書面

陸

軍





2202 陸軍電信用紙

局 著		局 發		所 名 人 信 受	
印 附 日	技 手	付 受 午 前	付 受 午 後	第	報 局
		時	時	月	
		分	分	日	號
定 指					
ス 大 乙 八 イ 4 7 2 ナ 夕 2 7 イ 1 2 夕 乙 夕 2 夕 ヨ 1 7 夕 ナ 夕 1 2 ヲ 夕 2 夕 ナ 夕 夕 夕 ナ 夕 夕 夕 ナ 夕 夕 夕					
事 記					
					番 號
					第
					34



石

憲兵司令部より電話報告(十日午前)  
京都憲兵隊長より左、電報只今、到達せん  
と報告せり

午後九時より騒擾起り新軍社、代議  
士邸及敬言官派出所より龍装ヒツ、アリ  
要求せり、憲兵出陣久(十七日午後十時)



陸

軍

憲兵司令部より電話報告(十日午後)  
廣島憲兵隊長より左、電報あり云々ニ付キ  
報告ス

本日午後九時頃より群衆約三百中國新  
軍社之前に集り、静浦ナルモ時、少石ヲ  
投ルニテアリ、敬言戒中



時

軍歩

軍歩

2075

憲兵司令部より電話報告(二十日午後三時)  
只今慶島及京都の憲兵隊長より電  
報ありと云ふ事あり

○慶島憲兵隊長此

中国新軍社、群衆于十八日午前、時三十分

異状ナリ解散セリ

○京都憲兵隊長此(二十日午後三時)

騒擾は只今、処断次第鎮静に向ヒツアリ

ヲ擴大ノ自慢ナシ

空

同

2076

軍部

時

印

印

印

陸軍省 綴集 四四二

軍二月十八日

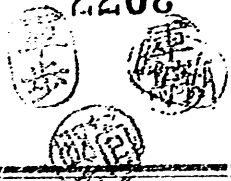
憲兵司令部より電話報告 (十時十分)  
只今東京憲兵隊長より、電報あり  
先之より報告あり

騷擾ハ十八日午前二時三十分平穩ニ歸ス  
致害警察官ノ数名ノ負傷者ヲ出シタル  
モ憲兵署署長ナシ損害者及市民ノ負傷  
者等不詳但し今尚圓山公園ニ約  
三百名集會演説中 (十時十分)

陸軍省

78

2071



大正

陸軍

次官

大臣

七

二月十九日午前三時十分憲兵司令部より電報報告  
京都憲兵隊長ヨリ電報、騷擾事件ハ十八日午後十  
時頃激シク常人數名火傷セシモ目下ノ處稍、鎮  
靜ニ歸シツツアルモ安心ナラス

今日午前六時五十五分憲兵司令部電報報告  
右令、騷擾ハ十九日午前一時三十分平穩ニ歸ス憲  
兵警察官尚警戒ナ解カス

軍二月十九日



99

陸軍

閱

二月十八日午後十時三十分  
 京都憲兵隊長ノ報告ニ依リ本日午後七時  
 三十分ヲ令知シ又驛接起リ警官派出所  
 龍衣ヒ其集團昨夜ヲ優勢

陸軍



2079  
參事  
白紙

軍部

軍事

次官

大臣

衛隊第三七號

三月十八日

軍隊差遣ニ関スル詳報ノ件

大正二年二月十八日

東京衛戍總督子爵川村喜朗

陸軍大臣男爵木越安綱殿

東京衛  
戍總督

去ル二月十日全十一日市內騷擾ノ際軍隊差遣ニ関スル詳報別冊一部及呈出候也

陸軍

41



2080

市内騷擾ノ際軍隊差遣ニ關スル詳報

東京衛戍總督部

42

市内騷擾ノ際軍隊差遣ニ關スル詳報

(大正三年二月十日) 東京衛戍總督部

二月十日

一午後四時二十分警視廳官房主事ヨリ電話ニテ左ノ要旨ノ請求アリ  
 目下國會議事堂附近ニ人民群集シ都新聞社ヲ破壊  
 シ或ハ之ニ放火シ更ニ國民新聞社及やまと新聞社ヲ  
 襲ヒツツアリ今後ノ狀況ニヨリテハ出兵ヲ請求スルヤ  
 モ知レサレハ豫メ準備セラレンコトヲ望ム

一午後四時三十分陸軍大臣當部參謀ヲ招致シ種々協議ノ結  
 果示成的ノ意味ヲ有スル有力ナル巡察ヲ市内騷擾地  
 附近ニ派遣スルコトニ決ス

一午後五時電話ヲ以テ兩師團ニ大(中)尉ノ指揮スル兵力約二十

陸

一

名一巡察ヲ派遣シ得ルノ準備ヲ下シ命令受領者ト  
シテ副官君ハ參謀一名ヲ出スヘキヲ命ス

一午後五時四十分第一師團ノ命令受領者ニ次ノ要旨ノ命  
令ヲ傳フ

一市内所々ニ人民群集シ二三ノ新聞社ニ對シ暴行ヲ  
加ヘツツアリ

二安寧秩序ヲ維持スル爲其ノ師團ヨリ數個ノ巡  
察(大尉若ハ故參中尉)ノ指揮スル下士以下約二十名ヲ左  
記方面ニ派遣スヘシ

(イ) 總理大臣官舎一國會議事堂附近

(ロ) 芝三田附近

(ハ) 土橋ヨリ國民新聞社附近ヲ經テ和田倉門ニ至ル附近

(ニ) 右經路ト交對ニ行動スルモノ

三青山離宮、宮城及神田方面ニハ近衛師團ヨリ巡察ヲ派

遣ス

(注意)

(一) 指揮官ニハ成ルヘク温和老練ナル將校ヲ選定スルコ

ト

(二) 群集ト衝突ヲ避クル爲成ルヘク銀座通りノ如キ

繁華ナル大通リヲ避クルコト

(三) 人民ニ對シテハ温和ヲ主トシ萬止ムヲ得サル場合

ノ外決シテ軍隊ヨリ手出ヲナササルコト

陸軍省

(4) 夜間ト雖著剣セサルコト

(5) 巡察途上ニ於ケル警察署及交番所ニハ特ニ注意シ若シ人民其ノ附近ニ群集シアラハ成ルヘク建柳ニ近接セシメサル様心概クルコト

(6) 巡察ハ約一時間乃至一時間半毎ニ派遣スルコト

(7) 巡察終了セハ將校ハ當部ニ主寄リ報告スルコト

一午後五時五十分警視廳ヨリ電話ニテ國民新聞社、やまと新聞社ノ處ニ多數暴行者群集シ甚ク危険ニ付成ルヘク早ク成ルヘク多數ノ兵隊ヲ派遣相成度請求アリ

一午後六時憲兵副官ヨリ左ノ要旨ノ報告(電話)ニ接ス

國民新聞社、讀賣新聞社、周圍ニハ約千五百人群集

レ社内へ進入セントシアリ各社ニハ憲兵八名警察官十  
 余名アルモ殆ント制止スルヲ得ス依テ軍隊ノ派遣ヲ望  
 ム

一午後六時十分近衛師團ノ命令受領者ニ次ノ要旨ノ命令  
 ナ傳フ

一市内所々ニ人民群集シニ三ノ新聞社<sub>社</sub>對シ暴行ヲ加ヘツ  
 ツアリ

ニ安寧秩序ヲ維持<sub>持</sub>スル爲其ノ師團ヨリ大尉若ハ故参中  
 尉ノ指揮スル下士以下約二千名ヨリ成ル巡察ヲ左  
 ノ方面ニ出スヘシ

(ハ) 青山雜宮一宮城方面

(10) 神田ニ六新聞社一太平町一内務省方面

三日比谷一芝一京橋方面ニハ第一師團ヨリ巡察ヲ派  
遣ス

(注、意)

第一師團ニ與ハタルモノニ同シ

一午後六時頃ヨリ今七時迄ノ間状況漸次切迫シ芝口警  
察署群集ニ包圍セラレ神田神保町交番所被  
壞セラレ國民、やまと、讀賣、ニ六各新聞社  
ヲ至數千ノ群集ニ包圍セラレ其ノ暴行ニ遭ヒ  
殊ニ國民新聞社最モ甚シク警署視廳ヨリ屢々  
兵員派遣ノ急ヲ訴フ依テ午後七時第一師團

へ左ノ命令ヲ下セリ

國民新聞社及讀賣新聞社方面ノ狀況甚ク切迫セ  
ルニ付此方面へ巡察ノ派遣ヲ成ルヘク速カニ取計  
ヒ要スレハ巡察ノ兵力ヲ増加スヘシ巡察途中危  
険ナル箇所ニ停止スヘキヤ否ヤニ就テハ一ニ狀況ニヨ  
リ適宜處置セシムヘシ

午後八時東京府知事ヨリ電話ヲ以テ出兵ノ請求  
アリタリ事急ナルヲ以テ直ニ之ニ應スル旨ヲ答フ

午後八時陸軍大臣・憲兵司令官・警視總監ニ巡察派  
遣ノコトヲ大々報告<sup>書</sup>通報セリ

午後八時第一師團ニ歩兵約一中隊ヲ衛戍總督部



出スヘキヲ命ス今八時四十分歩兵第三聯隊中隊長  
大尉森谷外雄將校三下士以下百四十一名當部ニ  
到着セシニ依リ豫備トシテ控置ス

午後八時五十分控置シテ部隊ノ内ヨリ原田中尉  
以下十一名ヲ内務大臣官舎附近ニ派遣ス此部隊ハ  
日比谷附近ヲ巡察シ十一日午前零時歸來シテ更ニ  
豫備トス

午後九時三十分群集日比谷公園ヨリ永田町方面  
ニ前進セシトスルノ報アリ依テ豫備ノ部隊ヨリ  
青木中尉以下三十一名ヲ參謀本部東側及南側沿  
近ニ出シ日比谷方面ニ對シ警戒セシム此部隊ハ十一

日午前零時頃歸來シテ更ニ豫備トナル

一午後九時四十分群集日比谷方向ヨリ總理大臣官舎ヲ襲ハントスルノ模様アリトノ報アリ依テ豫備トシテ控置セシム森谷大尉以下九十八名ヲ談官舎ニ出シ警戒セシム午後十時三十分此方面ノ状況異状ナキヲ認メ十一時警戒ヲ撤シ歸來スヘキコトヲ命ス爾後此部隊ハ衛戍總督部ニ在リテ夜ヲ徹ス十一日午前七時歸隊ヲ命ス

一午後九時四十分近衛師團ニ歩兵一小隊乃至一中隊ヲ衛戍總督部ニ派遣スヘキヲ命ス午後十時五十分近衛歩兵第一聯隊附中尉大原麟吉令城倉義衛ノ

指揮スル下士以下各二十名到着ス

午後十時五十分憲兵隊副官ヨリ上野浅草方面ニ  
約三百ノ群集騷擾ヲ極メ上野警察署ヲ焼ク  
トノ報告アリ依テ近衛師團ノ巡察區域ヲ擴  
張シテ上野浅草方面ニ及ホスコトヲ命ス

午後十一時下士以下五名ノ作候ヲ日比谷公園方面ニ出  
ス此作候ハ十一日午前零時歸來ス

午後十一時五分下士以下七名ノ作候ヲ日比谷公園及  
都新聞社附近ニ出シ要スレハ都新聞社附近ニ停  
止スヘキヲ命ス此作候ハ都新聞社附近ノ警戒ニ  
十一日朝撤去シテ原隊ニ復歸ス

一午後十一時三十分警視廳ヨリ日本橋區堀虎町東京  
 毎夕新聞社群集ノ襲来ヲ受クルノ虞アルヲ以テ速  
 ニ赴援セラレシメテ旨請求アリ依テ城倉中尉ノ率フル  
 下士以下二十名ヲ該社方面ニ派遣ス此部隊ハ午前一時  
 四十分歸來シ何等<sup>殊</sup>方面ニ異状ナク又新聞社ヨリハ歸返  
 ヲ希望セシ旨報告セリ

一十一日午前零時憲兵隊副官ヨリ群集ハ浅草、雷門、駒  
 形、黒船ノ交番所ヲ焼却セシトノ報告アリ今零  
 時三十分大原中尉以下十名ヲ下谷、浅草警察署  
 方面ニ差遣ス此部隊ハ午前一時上野警察署ニ到着  
 セシ、該警察署ハ既ニ全焼シアルヲ以テ浅草方

面ニ前進シ午前三時二十分頃馬通署日本堤分署ニ  
到着シ異状ナキヲ以テ歸還ノ途ニ就ケリ

午零時四十分近衛師團ヨリ將校ノ指揮スル下士  
以下十名ヲ本郷警察署及樞密院議長山縣公  
爵邸へ派遣スヘキヲ命ス此部隊ハ若午前三時三  
十分到着シ教言戒ニ任セリ

午前三時十分平穩ノ箇所ハ漸次撤去スヘキヲ命ス  
但シ若干ヲ残置スルノ必要アル場合ニハ必ラス將校  
ノ指揮ニ屬セシム

午前三時二十分近衛及第一師團ノ命令受領者ヲ集  
メ十一日朝食後將校一下士以下十名ヲ左ノ箇所ニ

差遣スヘキヲ命ズ

近衛師團

内務省(憲兵司令部) 山縣公爵邸

神田、牛込、小石川、本郷、下谷、浅草、麹町

四谷、新宿、各警察署

大山公爵邸附近ニハ時々巡察ヲ派遣スヘシ

第一師團

總理大臣官舎、外務大臣官舎、内務大臣官舎

桂公爵邸

京橋、日本橋、芝、麻布、赤坂、本所、深川

品川、各警察署

陸軍省

(注意)

警察署に派遣スルノ目的ハ警察官ヲシテ内部ニ  
 鎮慮スルコトナク活動スルヲ得シノ且萬一ノ變  
 ニ備フルニ在リ從テ外部ニ對シテ警告戒スルヲ  
 要セス署内ニ在リテ署員ト連絡シアルヲ以テ足  
 レリトス

附記

一第一師團ヨリ派遣セシ各方面ノ概況左ノ如シ

總理大臣官舎

歩兵第一聯隊附中尉遠藤市藏、下士以下二十三名  
 ヲ率ヒ午後七時二十分到着シ集、日比谷公園、虎、

門、葵橋附近ニ巡察ヲ派遣ス

午後九時三十分伊藤總理大臣秘書官ヨリ群集來襲ノ虞アリ目下會議中ナレハ十分ニ警戒セラルレタキ要求アリ

午後十時二十分歩兵第三聯隊中隊長森谷大尉ノ指揮スル九十八名ノ増加ヲ受ク此増援隊ハ午後十一時五十分撤去衛戍總督部ニ歸還ス

午前零時歩兵第一聯隊附少尉中山貫一下士以下二十五名ヲ率ヒ増加ス午前三時衛戍總督部ノ指示ニ基キ増加隊ヲ歸還セシム残余ハ翌十一日午前七時二十分當日ノ派遣隊ト交代シ午前



八時歸隊ス

桂公爵邸

歩兵第一聯隊附中尉塚本寛十、下士以下二十名ヲ  
 率ヒ午後七時二十分到着憲兵及警察官ト協議  
 シ一般ノ警戒ハ主トシテ憲兵警察官之任ニ激  
 遣隊ハ邸内ニ在リテ萬一ノ變ニ備フ

十一日午前零時三十分撤去歸營ス

國民新聞社

歩兵第三聯隊中隊長大尉神久伸信、將校以下  
 七十三名ヲ引率シ午後七時五十分頃到着當時  
 暴行既ニ鎮靜後ナリシモ尚ホ附近ノ道路ニハ所

々ニ群集散在シ憲兵警察官ハ之レニ對シ警戒中  
 ナリ依テ憲兵警察官ト協議シ主力ハ新聞社前  
 ニ位置シ樞要ノ個所ニ四人或ハ六人哨ヲ配置シテ  
 警戒シ尚ホ時々將校ノ率フル一分隊ヲ附近ニ出シ  
 巡察セシム

午後九時四十分頃三十分堀警察署群集ノ爲放火  
 セラレントスルノ虞<sup>報</sup>アリ將校以下二十五名ヲ派遣  
 シタルモ該警察署ハ無事ニシテ交番所焼却セラ  
 レタルノミナリシヲ以テ直ニ復歸セリ

午後十一時頃ヨリ逐次群集減少シ十一日午前一時頃ニ  
 ハ殆ント少數ノ通行人ト交番所ノ焼跡ニテ暖ヲ取

ル教名アリタルノミテ一般ニ鎮靜ニ歸ス

午前三時長岡中尉ノ指揮スル一小隊(二十五名)ヲ配置シ  
 同四時屯營ニ歸著セリ、長岡中尉ノ指揮スル一小隊ハ  
 爾後形勢カ平穩ナルヲ認メ十一日午前九時全部ヲ  
 撤シ歸隊セリ

群衆投石ノ爲兵卒一名面部ニ輕微傷ヲ負ヘリ

報知新聞社

歩兵第一聯隊附中尉山内原作下士以下二十名ヲ  
 率ヒ午後七時三十分同所ニ到着憲兵及警察官  
 ト協議シ所要ノ地点ニ複哨ヲ配置シテ警戒シ  
 時々教寄屋橋、鍛冶橋、和田倉門方面ニ巡察ヲ

激遣シ又火災ニ對スル消火ノ處置ヲ講ス

午後八時三十五分歩兵中尉西橋昭、下士以下二十名ヲ率ヒ増加ス依テ協議ノ上一時間宛交互ニ服務ス服務中時々教寄屋橋方面ヨリ群衆來襲ノ微アリシモ遂ニ近ツキ來ラス日比谷、教寄屋橋、飯沼橋附近ニアリシ群衆ハ十一日午前零時頃ヨリ分散シ午前二時頃ニハ全ク鎮靜セリ

午前一時三十分山内中尉ハ衛兵上番タル下士以下十一名ヲ率ヒ歸營ス、残余ハ午前四時三十分歸營ス

國會議事堂附近

歩兵第一聯隊中隊長大村久末英吉將校以下三十

一名ヲ率ヒ議事堂附近ニ至ル日共候ナシ

芝三田方面ニ下士巡察ヲ派遣ス

午後九時二十分内務大臣官舎附近ニ將校ノ率フル

一部ヲ分遣スヘキヲ命セラレ稲村中尉以下十名ヲ分

遣セリ

更ニ日比谷公園・数寄屋橋・京橋附近ヲ巡察ニ歸隊

ス

中尉稲村貞磨ハ下士以下九名ヲ率ヒ内務大臣

官舎ニ至リ大臣秘書官ト協議シ諸門ノ警戒

ハ警察官ニ任シ邸内ニアリテ事變ニ備ヘ時々

乍候ト官舎ノ周圍ニ派遣ス

十一日午前一時三十分電警ニ歸還ス  
 やまと新聞社

歩兵第三聯隊中隊長大村武田秀壽小隊長以下二十  
 四名ヨリ成ル三小隊ヲ率ヒ先ツ貴志中村ノ指揮スル  
 下士以下十名ヲ電車ニテ先遣シ爾余ハ午後八時十分  
 到着ス此熱狂セル群集ハ新聞社ヲ包圍シ街路  
 充滿シ警察官モ亦之ニ對シ如何トモスル能ハス新  
 聞社建物ヲ去ル數米突ノ地点壓迫セリ僅カニ  
 群集ノ屋内侵入ヲ防止シアルノニ群集ハ時々喊  
 聲ヲ擧ケテ警察官ニ迫リ屢々火ヲ放テ新聞社  
 ナ焼カントシ社員ハ電燈ヲ消シ各々其ノ窓牖

入口ニ在リテ防止甚タ力ヲ店レリ

福原少尉ノ率フル一小队ヲ讀賣新聞社附近ニ派遣シ  
 テ警戒ニ任セシメ自ラニ小队ヲ以テやまと新聞社  
 建物ニ沿フテ一列横隊ニ配列シ一方下士ノ巡察ヲ  
 出シ群集ノ企ツル放火ニ對シ妨護セシム

我配置セル警戒兵ハ群集ト相對峙スルコト約二十分  
 會々芝口警察署ニ派遣セラレタル野本少尉ノ指揮  
 スル下士以下十五名同署附近ノ群集解散セル爲其ノ  
 警戒ヲ撤シ増援トシテ到着ス依テ之ト協力シテ  
 逐次群集ヲ制壓シ午後八時四十分濟ノ新聞社  
 附近ノ街路ヲ扼止スルヲ得タリ

午後九時三十分以後群集ハ逐次其ノ数ヲ減シ午後  
十時乃至十一時ニハ殆ント鎮静セリ十一日午前四時  
警戒ヲ撤シ歸營ス  
負傷者ナシ

讀賣新聞社

福原少尉ノ率フル小隊ハ午後八時十分到着憲兵  
並警察官ト協力シ群集ヲ逐ク警備ニ任シ群集  
鎮静ノ後也また新聞社ニ在ル中隊ニ合シ歸營ス  
芝口警察署

歩兵第一聯隊中尉野本鷹之助下士以下十五名  
ヲ率ヒ先ツ下士一卒一ヲ電車ヲ利用シテ急行



群集ノ景況ヲ偵察セシメテ余ハ午後七時四十分  
 到着ノ當時該署ハ第二回群集襲來ノ直後ニ  
 シテ群集ハ既ニ四散シ且新宿警察署ノ應接巡  
 査約三十名到着シ爲ニ其ノ警戒ハ整備シテ然  
 ルニ一方やまと新聞社ノ狀況危急ニ切迫セルヲ以  
 テ警視廳ノ請求ニヨリ全部ヲ車ヒテやまと新聞  
 社ニ到リ同社ニ在リシ將校ト協議シ一方面ノ警戒  
 ヲ擔任セリ

十一日午前三時三十分歸營ノ處ニツキ今四時十五分  
 歸營ス

二當夜近衛師團ノ巡察及警戒區域ハ二六新報社ヲ除

ノ外何等事故ナク特ニ青山雜宮及宮城ノ周圍ハ松ノ  
ヲ安靜ナリキ

二六新報社

近衛歩兵第二聯隊中隊長大尉片山義太郎以下ニ  
十名巡察途中(午後十時過ノ頃)二六新報社附近  
群衆不穩ニ付該社ニ停止セシメ別段ノ事ナク後々  
群衆ノ靜穩ニ歸スルヲ待テ十一日午前二時半頃撤  
去セリ

二月十一日

近衛及第一師團ノ派遣隊ハ各午前七時ヨリ今八時三十分  
ノ間ニ夫々配置ニ就ケル

陸軍省

各方面ノ報告並通報ニヨレハ前日群集ヨリ襲ハレタル新聞社尚危険ノ景況アルヲ以テ次ノ如ク巡察ヲ擔任スル

新聞社へ 内務大臣官舎派遣隊ヨリ

讀賣新聞社へ 京橋警察署派遣隊ヨリ

報知新聞社へ 内務省派遣隊ヨリ

東京毎日新聞社へ 日本橋警察署派遣隊ヨリ

二六新報社へ 神田警察署派遣隊ヨリ

正午十二時第一師團へ左記箇所ノ派遣隊ニ兵力ヲ倍加スヘキヲ命ス

内務大臣官舎

芝警察署

京橋警察署

又第一師團ハ將校ノ率フル下士以下五名ノ巡察  
ニ組テ日比谷及京橋附近ニ出シ異状ヲケレハ其ノ下士  
以下ハ内務大臣官舎ニ残置スヘキヲ命ヌ

一午後零時四十分第一師團ハ陸軍大臣ヨリ第一衛戍病  
院ニ救護班三個(一救護班ハ軍醫一看護長一擔架三  
及所要ノ人員ヨリ成ル)ヲ準備シ其ノ行動ニ關シテハ  
衛戍總督ノ區署ヲ受クヘキ命ヲ受ケタルコトヲ通  
報ス

一午後二時四十分ヨリ先キ京橋神田方面ノ状況稍不

區  
○  
○  
宣

穂ノ状アルノ報ヲ得タルヲ以テ近衛東第一師團ハ左記

箇所ノ派遣隊ニ兵力ヲ増加スヘキヲ命ス

内務省(將校ニ)  
下以下十 神田警察署(將校  
下以下十)

一午後三時五十分總督参内シテ軍隊派遣ノ件ヲ

上奏ス

上奏文寫

軍隊派遣ノ件

東京市ノ安寧秩序ヲ維持スル爲東京府知事ノ

請求ニ依リ二月十日ヨリ近衛友第一師團ノ一部

ヲ派遣シテ警戒セシメ候

右謹テ上奏ス

大正二年二月 東京衛戍總督子爵川村景明

一午後三時五十分左記ノ箇所ニ午後八時頃迄數個ノ巡察

ヲ派遣シ且薄暮ノ景況ヲ報告スヘキヲ命ス

墺國大使館附近ハ 赤坂警察署派遣隊ヨリ

英國大使館附近ハ 麹町警察署派遣隊ヨリ

獨逸大使館附近ハ 總理大臣官舎派遣隊ヨリ

露國大使館附近ハ 外務大臣官舎派遣隊ヨリ

米國大使館附近ハ 歩兵第一聯隊ヨリ

佛國大使館附近ハ 近衛師團ヨリ

以上ノ巡察ハ悉ク異狀ヲ認メス

一市内平穩ニ復シ騒擾ノ虞少キヲ以テ警察視魔ト

陸軍省

協議し午後九時左、箇折ニ在ル派遣隊ノ撤退ヲ  
近衛及第一師團ニ命ス

新宿警察署派遣隊

四谷警察署派遣隊

品川警察署派遣隊

深川警察署派遣隊

本所警察署派遣隊

一午後十時十五分警視廳ト協議ノ結果左ノ箇折

ニ在ル派遣隊ノ撤退ヲ命ス

外務大臣官舎派遣隊

内務省派遣隊

桂公爵邸激遣隊

牛込、小石川、本郷、下谷、浅草、麹町

芝、麻布、赤坂各警察署激遣隊

午後十一時四十分警視廳及憲兵隊より各方面共既ニ平

静ナルノ報ヲ得タルヲ以テ残余ノ部隊ヲ悉皆撤

去スルニ決シ之ヲ西師團ニ命ス

一各激遣隊ハ十二日午前二時迄ニ夫々歸營シタリ

此ノ如クニシテ二月十一日ハ一般ニ平靜ノ裡ニ経過セリ

十二日朝軍隊撤去ノコトヲ陸軍大臣、憲兵司令官、東京府

知事及警視總監ニ夫々報告通報セリ

以上要スルニ各激遣部隊ハ群集騷擾ノ卷ニ在リテハ時

皇  
宮  
内  
務  
省  
文  
書  
館  
蔵



2113

2112

日本書紀

曩ニ加納秘書官先差出セシ總負調中  
 二月十日下午五時五分。四トアルハ誤リト付  
 本詳報ノ如ク訂正相成度

院

日本書紀

此  
日  
夜  
將  
枝  
二  
九

其ノ馬聲ニ沿ヒタルコトアルモ指揮官ノ周到ナル注心  
戒飭ニ基キ何等衝突ヲ惹起スルコトナク以上ノ應  
過ヲ以テ終結セリ

此發機ノ爲使用シタル兵力左ノ如シ

二月十日夜 將枝二四 下士以下 四九三

右ノ外將枝一、下士以下約二〇ヨリ成ル巡察ヲ宮城青

山離宮及神田、上野、浅草方面ニ廣ク派遣セリ

二月十一日晝 將枝二三 下士以下 二三〇

同日夜 將枝二九 下士以下 三〇〇

圖一六

大正

次官

軍事

軍水

2114

03

四四二

59

第十師團 報第二三號

四二九

月

軍隊派遣ノ際ニ付詳報

大正二年二月十七日

第十師團長 松川敏胤

陸軍大臣男爵木越安綱殿

陸軍大臣印

本月十五日報第二一號より軍隊ヲ神戸市ニ派遣件ニ  
關シ不取敢及報告遺候處昨十六日軍隊全部ヲ引  
揚ケ候旨左記ノ通茲ニ詳細及報告候也

左記

二月十四日午後八時十分頃兵庫縣知事ヨリ電話要求ニ  
依リ直ニ歩兵第三十九聯隊長、大隊長、指揮官ル約三百  
名、一隊ヲ行軍ノ名義ヲ以テ即時汽車ヲ神戸市ニ派遣

陸

軍

スルコトヲ命ゼリ

歩兵第三十九聯隊ヲ各中隊より選番士官ヲ指揮スル一隊  
(下生二上等兵四一等卒三二)合計十一個小隊將校以下三百十  
九名)ヲ編成シ歩兵少佐生島駿指揮シ下ニ出發セヨトテ服  
裝ハ軍裝ニシテ彈藥ハ携行セズ

當時比較的集合迅速ナリトシ三個小隊ハ歩兵中尉西村辰  
一之ヲ指揮シ午後九時三十分姫路驛乗車同時早分  
神戶驛日者先行ス殊餘ハ生島少佐之ヲ指揮シ午後  
九時五十分姫路驛乗車同十時五十分神戶驛着  
歩兵第三十九聯隊長小田切大佐監視ノ為同行ス  
二先發隊ハ神戶驛下車后停車場南方小學校運動場

二集后ノ命ヲ待ツ之レヨ先師自國彦謀長ハ先年隊ト  
 同行其隊縣廳ニ至リ知事代理ト被議シ現場視察  
 ノ結果先年隊ヲシテ小寺代議士即ニ至リ警戒ニ任セシム  
 先年隊ハ警備隊官ノ請求ニ依リ警備官ノ第一列ニ  
 軍隊ヲ穿テ列シ群衆ノ開散ニ力ナリ當時小寺即ハ  
 附近ノ群衆甚ク難治ヲ担フ其數無慮数千警備  
 官トシテ到底鎮撫ノ効ナリト一被軍隊ノ到着  
 各漸次開散シ午前十時頃ニ殆ト平穩ニ収メテ以テ  
 軍隊ハ警戒ヲ撤シ巡查官所ニ引揚ケ請求ニ依リ  
 時々將校又ハ下歩巡察ヲ派遣セリ  
 生島ハ佐ノ指揮ヨリ後年隊ハ着神后相生橋

警備署南方廣場に集合し、午前三時同市  
中區野町徳恩寺に宿営す

二十五日、午一取平徳ノ安勢とシテ警備署部長ト協議  
上生島少佐以下三十四名ヲ残置シ他ハ全部午後三  
時三十分神戸駅発列車ヲ取隊セヨタリ

十五日夜ハ依然群衆ノ紛擾アリシト軍隊ノ出動ヲ要  
スル警備署力ノシテ群衆ノ散ルニ至リ但シ午後  
一散セシムルヲ警備署部長ト協議シ上残置部隊ハ十  
五午前十一時三十分神戸駅発列車ヲ取還セヨタリ

四 派遣部隊ハ將校以下皆モ軽率ノ行動ヲ慎ミ下  
士以下皆肩肩ノ如キ之ヲ禁シ(平常慣習アリ)此際警備於

一時着剣はなんぞの間をゆく之ヲ脱せたり又新聞  
 紙上ニ全部着剣はなんぞの如く記載をせし部隊の休憩先  
 為又銃ヲしんらんヲ認むらん(以テ人民ノ感  
 情ノ挑発ヲ防ギ其言語ノ如キ人民ニ對シテ軍隊武ヲ  
 越ケ其行動モ辱ラ地方當局者ノ請求ニ應シ一巡査ノ  
 激進ニテ自動的行動ヲ遊ケシメテ其市民軍隊ニ  
 對シ何等惡感ヲ抱セシ状態ヲ認メテ而シテ警察官  
 軍隊ノ後援ノ頗ル有テリテ感謝シテ見テ如シ

陸軍

2120

參事

軍務

軍事

次官

大

廻覽

小泉島谷篠崎堀竹小森落塚

參事

軍省領報第四四二號

軍務部第二九二號

參事

參事

62



第五師團 報第一九號

三月二十日

軍部第二九號

軍省領報第四四二號

新聞社ニ對スル暴行ニ關スル件報告

大正三年二月十日 廣島衛戍司令官有田

陸軍次官岡市之助殿

昨十七日不取敢電報々告致置矣中國新聞社共ニ全社長宅  
對スル暴行事件ニ關スル情況ノ概要左記ノ通及報告矣

左記

十六日午後一時ヨリ東遊廊内寄席柳座ニ全午後六時ヨリ西遊  
廊内神明座ニ於テ憲政擁護政談演說會ヲ開催セリ  
右第一回演說會ハ別狀ナリ之ヲ終リ第二回演說會ニ於テハ  
聴衆非常ニ多ク開會當初ニ於テ既ニ滿員トナリ入場得

2120

2119

參事

軍少

軍事

次官

新報第一九號

第五師團 報第一九號

五月二十日

新聞社ニ對スル暴行ニ關スル件報告

大正三年二月十日 廣島衛戍司令官有田

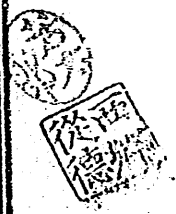
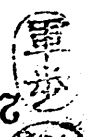
陸軍次官岡市之助殿

昨十七日不取敢電報々告致置矣中國新聞社共ニ全社長宅  
對スル暴行事件ニ關スル情況ノ概要左記ノ通及報告矣

左記

十六日午後一時ヨリ東遊廊内寄席柳座ニ全午後六時ヨリ西遊  
廊内神明座ニ於テ憲政擁護政談演說會ヲ開催セリ  
右第一回演說會ハ別狀ナリ之ヲ終リ第二回演說會ニ於テハ  
聴衆非常ニ多ク開會當初ニ於テ既ニ滿員トナリ入場得

2120 2119 2120-2



サルモノ三四百名ニ上リ該會ノ終リセルハ既ニ午後九時ヲ過ント  
 スルノ頃ニシテ右終ルヤ内外ノ聴衆中ニ三百ノモノハ續テ西練兵  
 場内附近ニ集リ茲ニ新聞社ヲ襲フノ談合ヲナシタルモノヲシテ十  
 時過キ至リ右人員ハニ手ニ分レ一團ハ新聞社ニ他ノ一團ハ  
 全社長ノ自宅ニ向ヘリ此間之ニ加ハルモノ漸次増加シ遂ニ四五  
 百名トナレリ而シテ右等ノモノハ何レモ小石等ヲ手ニシテ騷擾ノ動  
 作ヲ示セルヲ以テ憲兵巡查ハ百方慰諭解散ニ努メ旁々警戒  
 ニ盡カセル結果此等群集ハ逐次解散セリ續テ午後十二時頃ニ至  
 リ一度解散セル群集ハ再び全社ニ引込シタルモ是又亦憲兵巡查  
 ノ取締ニ依リ懼カシ石ヲ投シテ全社ノ窓硝子若干社長宅ノ門  
 燈等ヲ破損シタルニ止マリ其後何事モナク引上ケ解散セリ然レトモ

尚ホ當夜成效セサリレテ更ニ昨夜(十七日夜)ヲ期シ再ヒ事ヲ  
 擧ケントノ風評アルヲ以テ憲兵警察官ハ夫々注意警戒ヲナシ  
 ツ、アリ

軍人側ニ於テハ此事ニ何等ノ影響ナキモ此際各部隊長ニ特  
 ニ注意ヲ倍徒シ下士以下ノ外出等ニモ充分ノ顧慮ヲ拂ヒ以テ  
 万一ノ失態ニカランコトヲ訓示シ置ケリ

十七日午後九時五十分頃群衆約三百名中國新聞社前ニ集リ  
 喧噪セリ其後山本全社長宅ヲ襲ハン形勢ヲ示シ兩者間ニ往  
 復シツ、アリレモ憲兵警察官ノ共力警戒ニ依リ別ニ何事モ  
 ナク漸次引揚ケ解散セリ

陸

軍

師團 報第二六號

新聞記事、周之件通牒

大正二年二月三十日 第師團參謀長石光 上真 臣

陸軍省副官長奈良武次殿

本月十六日夕刊大阪時事新報第二千八百九十六

號、左記、如キ記事有之候慶、當日午前二時

過一都、巡查教習所、大都、宇治野町徳

照寺、商人等シアリテ當時軍隊、小寺邸内、勿

論其附近ニモ在ラサルノミナラス、同家ヲ給養ラヌ

ルカ如キ事實、實モ無之、全ク事實無根、有之

候存御含置相成度候也

2123



日記

左記

十五日午五時七時ニ至リテ宇治野徳照寺ニ引揚ケタリ  
 記者ハ午前十時小寺邸ヲ訪問シタル所廣ヤカナル  
 同家邸内ニ劍銃皆囊ヲ以テ埋メテ折板中食中  
 トテ多數ノ兵士三々伍々小寺邸ヲ給與セタル卷  
 帙ヲ頬張リマアリタリ云々

開



次官

軍事



2125

憲警第一四九號第二



市内騷擾鎮撫狀況ノ件報告

三月一日

大正二年二月十八日憲兵司令官南部辰

陸軍大臣男爵木越安綱殿



別紙之通東京憲兵隊長ヨリ報告有之候ニ付  
及報告候也

陸軍大臣男爵木越安綱殿

陸軍大臣男爵木越安綱殿



65

陸軍

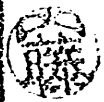
東京市内騷擾鎮撫状況ノ件

一 事件發生及終了年月日

大正二年二月十日發生同月十日終了

二 鎮撫ノ状況

大正元年十月中旬西園寺内閣總辭職ヲ爲程  
 公大命ヲ奉シテ新ニ内閣ヲ組織スルヤ政友會及國  
 民黨ノ一部代議士ハ頻リニ其行動ヲ非立憲的ナリト  
 稱シ同派ニ屬スル院外團及同志ノ新聞記者等  
 ヲ糾合シ憲政擁護藩閥打破ヲ標榜シテ或ハ  
 各所ニ演說會ヲ開キ大ニ世論ノ喚起ニ努メタリ  
 十月二十日第三十回帝國議會ハ開會セラルタルモ標





算編成未々成ラサルノ故ヲ以テ大正二年二月四日迄  
 俾會ヲ命ジシ二月五日其期滿ケテ開會スルヤ所謂  
 民黨ト稱スル派(政友會及國民黨)ハ内閣不信任ノ案  
 ヲ提出シ為ニ再々五日間ノ俾會ヲ命ジシリ時情  
 カモ桂公ノ新政黨組織ノ計畫アリ民黨ノ一派  
 ハ益々桂内閣ノ行動ヲ非立憲ナリト憤怒シ愈々  
 民論ヲ喚起シ強シト其極度ニ達セリ  
 二月十日ハ乃チ第二回俾會ノ期滿ケテ議會閉會ノ  
 日ナリ隊長ハ前議會俾會時ニ於ケル状況ト數日未而民  
 族論ノ状態ニ鑑ミ必スヤ多數憲法ヲ用ユルノ止ムナキニ至  
 ルハキヲ察知シ豫メ在京分隊ノ強シト全員ヲ本部ニ

<p>招致シテ九ノ如ク編成シ以テ之ヲ用フルノ期ニ備ヘテ</p>	<p>乗馬班</p>	<p>徒歩班</p>
<p>長 大尉前田良太</p>	<p>長 中尉幸坂九十九</p>	
<p>第一班 曹長 丸山全藏 上等兵 九名</p>	<p>上等兵十一名</p>	
<p>第二班 曹長 田村辰之助 下士 上等兵 十名</p>		
<p>第三班 曹長 池田久安 上等兵 九名</p>		
<p>第四班 曹長 磯崎伸太郎 下士 上等兵 七名</p>		
<p>第五班 曹長 磯城根八名 上等兵 八名</p>		
<p>人議院及都新聞社附近ノ状況</p>		
<p>午前十時頃ヨリ群衆ハ議院ノ經過ヲ知ラントシ或ハ議 員ヲ督勵スト欲ヒ續ク議院及日比谷公園附近ニ集</p>		

午前十一時頃、約三四百ヲ算セシカ時々刻々増加シテ午  
前十時三十分頃、約一千人午後一時頃、二万ヲ以テ数  
フニ至リ頗ル雑沓セリ

午後一時三十分議會ハ會議ヲ開ク事トシタレド會命  
セシ此報ニ接スルヤ群衆ハ騷擾スベキ狀況ニ付テ警視  
廳第一部長ヨリ乘馬憲兵二十五騎出場ノ要求アリタレ  
テ以テ直ニ乘馬憲兵第一乃至第二班ヲ前田大尉ニ指揮  
セシメ次テ第四第五班ヲ岷崎根特務曹長・屬シテ之ヲ  
院附近ニ派遣シ他ノ徒歩憲兵ハ幸坂中尉指揮ノ下ニ  
本部ニ在リテ豫備タラシメタリ

第一次派遣ノ前田大尉ノ率フル乘馬憲兵ハ午後

一時四十分頃日比谷公園圖書館附近に到着セリ時之警  
視廳ニ於テハ徒步巡查ヲ第一線トシ群衆ニ接シテ殆  
シト一列横隊ニ排列シ騎馬巡查ヲ第二線トシテ第一  
線ノ後方約十米突ニ位置セシメテ群衆ハ

都新聞社前路上ニ 約一万人

海城中學校前路上ニ 約百人

御膳前ヨリ虎ノ門ニ至ル 約六百人

今入町十字路(新橋南方) 約五百人

集團セルモ都新聞社附近ヲ除キ他ノ方面ノ未タ甚  
シキ喧噪ヲ見ルニ至ラス茲ニ於テ憲兵ハ主力ヲ都新  
聞社前ニ置キ以テ群衆ノ喧噪ヲ制シテ捕ヲ捕ス

上テ到着シテ第二波激進ノ岷岷根特務曹長率  
 フル一半ヲ幸門附近ニ激進シテ群衆ノ都新聞特  
 面ニ集スルヲ防止シ一面談方面ニ於テ交通ノ自由  
 圖ラシメタリ

午後二時頃議會得會ノ報ヲ聞知スルヤ群衆漸  
 次喧噪ヲ示シ道路ヲ壅塞シテ議員ノ通行自由ナ  
 ラサリシヲ以テ警察官ト協力群衆ヲ排除シ之レカ  
 交通ヲ自在ナシメタリ

然レトモ群衆ハ動モスレハ道路ヲ壅塞シ且ツ喧噪止マ  
 ス容易ニ退散セザルノ状アリ茲ニ於テ午後三時頃騎馬  
 査ハ馬ノ威力ニ依リ之ヲ解散セシメントシ群衆中ニ

突入スヤ却テ群衆ノ憤怒ヲ買ヒ瓦石ヲ投スル者アリ或  
 ハ暴言ヲ弄スル者アリ罵詈スル者アリ一方群衆ノ一部ハ  
 部新聞社ニ投石シテ窓硝子其他ヲ破壊シ同社構内  
 ノ物置ニ放火スル等頗ル暴狀ヲ極メ喧噪ハ遂ニ騒  
 擾トナリ喧々囂々タリシモ憲兵ハ警察官ト協力シテ  
 之ヲ鎮撫シ且ツ群衆ノ一部ヲ強制排除シテ交通  
 路ヲ開キタリ時ニ午後四時頃ナリキ  
 其後間モナク群衆ハ漸次退散ヲ始メ衆馬憲兵ノ  
 必要ヲ認メサレニ至リタルヲ以テ午後四時五分頃隊  
 ヲ引キ

午後四時五十分頃群衆ハ報知國民、やまこ、讀賣ニ

大等ノ六新聞社ヲ襲フノ情敵アリ同時憲兵司令官ヨリ左ノ命令ヲ受領ス

都新聞外國民、やまゝ、讀賣、報知等新政黨則各新聞社ハ群集暴行放火等ヲ為ス虞アリ依テ憲兵ハ警視廳へ交渉シ直ニ之等新聞社ノ警戒部署ヲ取ルヘシ

軍隊ハ總理大臣ノ要求ニ依リ只今ヨリ主トシテ皇居及議院附近ノ示威巡邏ヲ開始ス

尚ホ桂首相邸(官自邸共)ハ特ニ警戒スヘシ  
做テ

國民新聞社へ

田村曹長以下ハ騎

也まど新聞社、 延岡曹長以下七名

讀賣新聞社、 丸山曹長以下七名

二六新聞社、 城崎曹長以下七名

報知新聞社、 志田任長以下五名

ヲ派遣セリ

之國民新聞社ノ状況

國民新聞社ニ派遣セシムル田村曹長、 卒ルン終我

隊ハ午後五時五分頃京橋区加賀町ニ達ス時ニ數

百、 群衆ハ同社ヲ包圍シ數十ノ警察官之ヲ解散

セシメントスルモ其効ナク盛ニ瓦石ヲ投シテ同社ノ窓硝子

扉等ヲ破壊シ尚黙火ニ燃レ古新聞紙又ハ箒等ヲ社



内を殺して焼燬ヲ試ミントシツ、アルヲ望見セリ茲ニ放テ  
 田村曹長ハ部下ヲ二分シ北村上等兵以下四名ヲ南方  
 即チ難波橋方面ヨリ他ハ自ラ之ヲ率ヒ西方即チ八  
 官町ト加賀町トノ中間道路ヨリ群衆ヲ排除シテ莫  
 進シ午後五時三十分頃同社前ニ達シ警察官ト協力  
 鎮撫ニ努メ先結果投石放火等ノ暴行為ヲ止スモノ  
 殆ント之無キに至リ先ハ群衆ハ依然頻リノ喊聲ヲ發シテ  
 退散セズ寧ロ漸次其數ヲ加フルノ状態ナリキ  
 是レヲ先キ市内ノ情况頗ル穩カナラザルノ情報ニ接スルヤ  
 更ニ第一分隊ヨリ當直要員ニミテ派遣シ他ヲ悉ク招  
 致シ午後五時三十分頃中山伍長以下十名ヲ國民新聞

社ニ増加シ次テ各方面ノ情况益々不穩ト至リ憲兵練  
習所學生下士以下四十四名ヲ配屬セラルヤ更ニ前  
田大尉以下十七名ヲ増遣セリ以上増加兵ノ同社ニ到  
着シタル頃ハ軍裝ニ派遣シタル憲兵警察官ニ於テ  
群集ヲシテ同社前ヨリ稍後退セシム得タル時ナリト  
倣テ更ニ之ヲ擴張セリト群衆ヲ強制シテ午後七時五  
十分頃ニハ約百米ヲ後退セシムルニ得タリ

午後八時頃群集ハ漸次退散シ殆ント警戒ノ必要ヲ  
認メサルニ至リ時ニヤト新聞社方面甚々急タルノ  
報アリ依テ國民新聞社警戒員ノ内ヨリ下士以下  
ハカヲ四オト新聞社ニ増加シ而シテ最初ヨリ國民社

ノ警戒ニ從事シタ田村曹長以下八騎ヲ本部ニ帰隊  
セシメテ其後群衆復々来ラヌ全ク平静ニ帰リタ  
以テ午後十一時上等兵四名ヲ残置シ他ハ悉ク撤去  
隊セシメタリ

此警戒中午後八時頃憲兵練習所ヨリ配属  
先憲兵軍曹光瀬實松ハ群衆ノ投シタル石塊ノ  
為メ前額部ニ長サ二分深サ一分ノ割傷ヲ受ケタリ

3 報知新聞社ノ状況

報知新聞社ニ派遣セラルル志田伍長以下五名  
ハ午後五時五分同社ニ到着セリ時ニ数十ノ群衆ハ  
既ニ放火ヲ試ミトシテ果サズ石ヲ投シテ同社

ノ扉窓硝子等ヲ破壊シ銀座方面ニ解散シテ  
アル際ナリ

午後七時頃ヨリ約二十名ノ群衆絶ハス同社附近  
ノ状況ヲ窺フノ模様ナリモ果敢午後九時頃ニ至リ  
國民新聞社ヲ襲撃シテ群衆ノ一部約千餘人ハ  
数寄屋橋交番所ヲ焼燬シ勢ニ乗シテ喊聲ヲ  
擧ケテ再々同社ニ襲撃スルモ是ヨリ前午後八時  
頃同社警備ノ為メ到着シテ中尉ノ指揮スル步  
兵千名ノ一隊及警察官ト協力シテ之ヲ後長  
セシメタリ

此群衆ノ轉ジテ日比谷公園ニ至リ一部ハ外務省方面

大部ハ三田方面ニ向フノ状況ナリシヲ以テ参謀本部  
陸軍省、陸軍大臣官邸ニ各下士以下ニ名ヲ派遣シ曉  
戒セリ

三田方面ニ向ヒテ群衆ハ芝西久保警察署員ノ阻止  
スル所トナリ漸次後退シテ櫻田本郷町附近ニ止マリシカ翌  
十一日午前一時頃全ク解散セリ

次やまと新聞社ノ状況

やまと新聞社ニ派遣セラルル延岡曹長以下七名ハ午  
後五時五十分頃同社前ニ到着ス是レヨリ先キ約  
一千名ノ群衆ハ同社ノ窓戶ニ投石シテ之ヲ破壊  
シ既ニ讀賣新聞社方面ニ散散シタル後ニシテ頃

此年穩より午後六時五分頃より群衆再び集  
 漸次其数ヲ加へ須臾ニ至約一千名ノ多キニ達シ  
 タルモ何等ノ暴舉ナク新聞社ヲ傍觀ニ居  
 ル状態ナリ午後七時頃約三百名ノ群衆  
 新聞社方面ヨリ隣ヲ舉テテ同社ニ向ヒ東  
 之ニ和シ勢ニ乘シテ社内ニ殺到セトスルノ状アリ依  
 テ憲兵ハ警察官ト協力群集ヲ強制シテ一時後  
 退セシメタルモ再ニ同社ニ直接ニ後方ヨリ投石シテ同  
 社ヲ破壊スルモノアリ或ハ放火セシト試ムル者アリ  
 退散ノ状ナカレバ午後八時五分頃國民新聞  
 社警戒ノ任ヲ果シタル憲兵練習所學生中島曹

長以下八名ノ増援アリテ勇氣大ニ振ヒ鎮撫ニ努メテ  
 結果午後九時二十分頃漸次退散ヲ見ルニ至リ  
 時信カモ歩兵第三聯隊ヨリ大尉ノ指揮スル百二十  
 名ノ一部隊到着スルアリ聞モテ急ク回散シテ平穩ニ  
 復シキ

此警戒中憲兵曹長笹岡久安ハ午後七時廿分頃群  
 衆ノ投シタル石塊ノ為メ後頸部ニ長サ約三センチ  
 深サ薄膜ニ達スル創傷ヲ負ヒ苦痛ノ丈メ勤  
 務ニ堪ラス午後八時三十分頃遂ニ敵隊ニテ

分讀賣新聞社ノ状況

讀賣新聞社ニ派遣セラルル丸山曹長以下七

名ハ午後五時世分頃同社之到着セリ時之約二五ノ群  
 衆ハ同社ノ周囲ニ蟻集シ中ニ八九石ヲ投シテ窓硝  
 子破壊スル者アリ警察官約六七名之ヲ制止  
 シ解散セシメントシワアリ依テ憲兵ハ主力ヲ同社  
 入口ニ置キ一部ヲ割キテ同社ノ北側ニ派シ之カ  
 鎮撫ニ努メタリ

午後六時四十分頃ニ至ルヤ群集ハ益々其数ヲ増  
 カシテ附近ノ街路ニ充溢シ電車ノ交通ヲ遮断  
 シ其一部ハ同社ノ看板ヲ撒セトシ又其一部ハ社  
 内ニ闖入セトスルノ模様アリ喧噪ハ愈々甚シカシテ  
 憲兵ハ同時刻頃増援トシ到着シ先憲兵隊



習所學生岩田軍曹以下七名ヲ合シ之レカ額  
 ニ努力シタル結果後等ハ遂ニ其目的ヲ達ス他  
 ヲ六午後八時頃餘憤ハ遂ニ附近ニテ一橋京交  
 番所ヲ倒壊シ一部ハ本所方面ニ一部ハ二六新報  
 社方面ニ退散シ殆ト暴行者ノ跡ヲ絶ツニ至リ然モ  
 一部ノ群衆ハ尚ホ山マリテ同社ノ附近ニアリ方漸次  
 退散シテ午後十二時頃ニ殆ト復影ヲ見サル至  
 レリ  
 午後九時頃歩兵第三聯隊ヨリ増援ノ率ルニ一部  
 隊同社警戒ノタメ来リ且モ時既ニ群衆ノ大部  
 退散シタル後ナリキ

五六新報社ノ状況

ニ大新報社ノ派遣セシムル城崎書長以下七名ハ午後五  
 時半分頃同社ニ達セリ時ニ警察官約九十名同  
 社ヲ警戒シ居リシニ群衆亦夕未襲セズ極メテ平  
 靜ナリキ

午後七時分頃約一ヶノ群衆同社ニ襲来スルヤ  
 其数益々多キヲ加ク須臾コレテ一万以上ニ増加シ  
 絶ス不喊聲ヲ發シテ喧噪シ中ニ瓦石ヲ投シテ警察  
 子其他ヲ破壊スルモノアリ一部ハ社内ニ闖入セント企テ  
 リ茲ニ於テ憲兵ハ此頃増援トシテ到着シテ憲兵  
 練習所學生渡邊軍曹以下四名ヲ合シ警察官ト

五

五

協力之ヲ強制シテ僅ニ後退セシメタルモ群衆ハ喧々囂々  
容易ニ解散セザリシカ午後十二時頃ニ至リ漸次退散シ翌  
十一日午前三時頃ニハ全ク平穩ニ復シタリ

市内ノ騷擾容易ニ鎮靜セザリシ状況ニ依リ午後六時憲兵練  
習所學生下士上等又四十四名ヲ臨時配屬セザンヤ先  
到着シタル所内居住下士以下及東京憲兵隊ノ戒備ヲ  
令シ前部ノ如ク國民ノ讀賣、二六、三新聞社ニ増遣  
シタル外尤ノ如ク部署シ

總理大臣官邸、 下士以下四名

外務大臣官邸、 上等兵二名

内務大臣官邸、 同

都新聞社へ

下五以下三名

猶ホ午後七時五十分逐次到着シタル所外居住者葛原特務曹長以下十名ヲ桂公衛邸ニ派遣セリ

ニ六新報社ヲ襲ヒタル群衆ハ更ニ下谷、決草至リ行

行速查交番所又ハ警察署ヲ或ハ破壊シ或ハ焼燬シ既

橋ニ於テ隅田川ヲ渡リ本所区に入り茲ニ二分シテ一部ハ再ニ既橋

ヲ渡リテ決草区内ニ進シ一部ハ轉テ隅田川沿岸ヲ北進シテ

門ヨリ千束所ヲ経吉原遊廓に入りテトシカモ拒止セシメリ

斯ノ如ク群衆ノ趨町、芝、京橋、日本橋、下谷、決草、本

所、深川、本郷ノ九區ニ涉リテ横行シ都、國民報

知、やまと、讀賣、ニ六ノ六新聞社ヲ破壊シタル外

1096

上野警察署ヲ燒却シテ凡ソ首トシ實ニ五十有餘ノ交番所ヲ破壞若クハ燒燬シ翌十一日午前二時三分頃至リ漸ク平穩ニ復シタリ

以上ノ状況ニ依リ憲兵ハ總理大臣官邸ニ下士以下四名桂公壽郎ニ下士以下五名、都、國民報知、やまと、讀賣、ニ大ノ六新聞社ニ各上等兵ニ名ヲ残置シ他ハ十一日午前六時之ヲ撤去シタリ  
ニ參與人員凡ノ如シ

隊長 憲兵大佐 岡本清作

副官 憲兵中尉 長久保 晴

第一隊長 憲兵大尉 前田良太

隊附

憲兵中尉

幸坂九十九

特務曹長

堤根

令

同

近藤

徹

曹長以下 百二十九名

四 本隊機銃隊之際に憲兵が一毛兵器ヲ使用せん方リ  
 之ハ他ナシ即チ群衆ノ多クハ所謂騎次馬ニテ放石  
 放火等ノ暴行爲ヲ爲ス如キ不良ノ徒ハ眞ニ其  
 一部ニ過キス而モ其行爲ヲ爲スニ當テヤ彼等ハ  
 群衆裡ニ混在シテ巧ニ吾人ノ眼目ヲ僻ケ何レカ  
 不良ノ徒ナルヤ何レカ然ラザンヤヲ識別シ能ハザルニ  
 殊ニ群集中ニハ軍ニ好奇心ニ馳テ喧噪ノ状ヲ見シ

??

トシテ来レル者或ハ通行ノ途偏々之ニ重過シテ其  
 濁中ニ投入セラル者等良民亦實ニ少サキヤトナリ  
 之ニ對シ兵器ヲ使用スルトキハ勢ハ多ク、犠牲ヲ抑止  
 石俱ニ焚クノ覺悟ナカルハカラス而シテ一朝經學之ヲ  
 使用スルアラシカ鎮撫上何等ノ効ナキノミナラス徒ラニ  
 騷擾ヲ激増セシムルニ終ルキハ彼ノ騎馬巡査ノ行  
 為カ益々紛擾ヲ増大ナラシメタルニ徴シテ明ナリ要ス  
 ルニ實際ニ於テ之ヲ使用スルノ不可ナモノアリトハ  
 未タ之ヲ實用スルノ状況ニ至ラザルニ由ルコトナリ